

厚生文教委員会行政視察報告書 (愛知県豊明市)

厚生文教委員会
委員長 加藤 克之

視 察 名 弥富市議会厚生文教委員会行政視察

日 時 令和7年7月10日(木)

視 察 先 豊明市共生交流プラザ「カラット」

視 察 項 目 学校閉校後施設を活用した子育て及び多世代交流施設について

視察参加者 議会議員8名 加藤克之、小久保照枝、那須英二、高橋八重典
佐藤仁志、横井克典、平居ゆかり、鈴木りつか
事務局1名

7月10日（木）愛知県豊明市

愛知県豊明市の概要

愛知県の中央よりやや西部に位置する豊明市は、東は境川を隔てて刈谷市、北は東郷町、西は名古屋市、南は大府市に接しています。面積は23.22平方キロメートル、周囲27kmで地形は台地と低地からなり、一帯の土地は、北部の標高72mの二村山を最高に南に向かってゆるやかに傾斜し、全市平野部を形成しています。名古屋市に隣接しているため、ベッドタウンとして発展してきました。こうした「新しい街」という顔と、織田信長が今川義元の大軍を破り天下統一の糸口を作った桶狭間古戦場を有する「歴史の街」というふたつの顔があります。

人口（令和7年5月1日現在）

総人口	男	女	世帯数
67,682	34,368	33,314	31,441

豊明市議会

議員定数 20人（平成15年1月1日から）

常任委員会名等	定数	所管事項
総務委員会	6人	行政経営部、市民生活部、会計管理者および他の常任委員会の所管に属しない事項
健康福祉委員会	7人	健康福祉部の所管に属する事項
建設文教委員会	7人	経済建設部、教育委員会の所管に属する事項
議会運営委員会	8人	議会の運営、会議規則、議長の諮問に関する調査を行い、議案、陳情等を審査。

豊明市視察目的

地域共生社会の実現に向けた先進事例として、小学校跡地を活用した複合施設「豊明市共生交流プラザカラット」の運営形態、施設・設備内容、市民参加状況などを調査し、本市の地域政策につなげることを目的とする。

豊明市視察の概要

令和3年3月に統廃合により閉校した豊明市立唐竹小学校は、企業版ふるさと納税や国の補助金などを活用し、改修費約10億円をかけ令和4年5月より複合施設「豊明市共生交流プラザカラット」として生まれ変わりました。地域の居場所、子育て世代の交流の場として午前9時から午後9時まで利用可能となっている。

指定管理者制度を活用し、トヨタグループのトヨタエンタープライズに委託している。

豊明市が支払う管理料は、5年間で1億6千万円（年間約3千2百万円）、光熱水費は、年間約1千2百万円である。

年間の運営費は管理費と光熱水費を合算して約4,400万円、貸館利用料金は年間約1,600万円の収入がある。

施設開設後の来館者数は初年度約27万人、2年目約32万人、3年目は約34万人に達している。

貸館利用の状況は、開設1年目に7,696件（稼働率34.7%）から、3年目には12,009件（稼働率41.1%）と大幅に増加。体育館にエアコンを設置して貸館としたところ、稼働率が日中で90%以上、夜間で100%の稼働状況となっている。

3階、4階建ての2棟からなる施設で、音楽や運動なども使えるスタジオ、起業するためのオフィス利用や家族パーティなども行える活動室、休憩できるラウンジやイートインスペース、子どもが自由に遊べるスペース（幼児、小学低学年、高学年）がある。

施設の構成として、交流プラザのほかに子育て支援センター、児童発達支援センター、歴史民俗資料館などを集約し元の施設を廃止して公共施設の統廃合も進めている。

施設利用においては、条例、条件などルールの緩和をしており、例えば政治、宗教、ビジネス、またアルコールを含む飲食や音楽活用など、可能な限り利用者の要望に対応している。

屋外には子どもが遊べる噴水やクッション性のある人工芝もあり、人気の屋外スペースとなっている。

土・日曜日等には駐車場を利用し、イベント等を頻繁に開催している。

通常は、施設のどこからも出入りすることが出来る構造になっているため、午後6時以降は、セキュリティーの問題から出入口を1か所に制限している。

カラットは、大規模災害の際は、長期避難場所となっている。

エレベーターが整備され、救急時にはストレッチャーが入るサイズになっている。

豊明市視察所感

豊明市の担当職員が指定管理の業者と密に連携し、コミュニケーションを交わし、可能な限り利用者の要望に応じて利用制限を緩和し、子供から高齢者まで誰もが利用しやすい施設を目指し実現したことは、本市としても大いに参考になると感じた。また、カラットは学校の面影を残しつつ、多世代がそれぞれの役割を持ち、支え合う地域共生のモデルとして今後の地域づくりの参考になった。

「市民のやりたい事を形にする！」というスローガンを基に、起業する人やボランティア団体などの活動が活発になり、実際に施設を見学することで、地域の活力が生み出されていることを実感できた。さらに、本市の貸館利用は「団体登録」という制限があるが、カラットは、「誰でも何でも使える」施設となっていて、こんな施設が近くにあったらここに住みたい！と思わせてくれる。弥富市の魅力あるまちづくりの一環として定住化、人口増加に繋がることが期待できる。是非、弥富市の学校跡地利用では、今回の視察で学んだ事を積極的に取入れ、まちの活性化に繋げていきたい。



豊明市共生交流プラザ（愛称カラット）前